

誤と見ざる可らざるが如きも、然も今本舊唐書が却りて誤を記し、原とは證聖と記したるものにして、冊府元龜が能く其の舊體を存せるものなるかも知る可らず、今特にかゝる推察を試みんとするは、嗣聖の年號は云ふ迄も無く中宗即位の翌年に立てたるものにして、證聖は武后の立てたるものなるが、中宗が嗣聖元年位を廢せらるゝや、其の復位を見るに至る迄の間は、舊唐書は武后の年號を用ゐて事を記し、中宗の年號を用ゐざるが常なれば、假令證聖なる年は嗣聖中の一年に相當すとは雖、獨り此の場合に於てのみ、特に中宗の年號を用ゐることは、疑ふべき事と見得べきを以てなり、されば冊府元龜の此の一節が舊唐書より出でたりとするも、或は舊唐書と同一の史料より出でたりとするも、此の場合に於ては、同書の證聖中と記せるを以て正しとすべきが如し、之を要するに、獨解支の死時は證聖元年か若しくは開元三年かの何れかに置くべく、若し前者によれば、其の部酋としての在世は十五ヶ年に止まれども、後者によれば三十五ヶ年の久しきに亙りしものなりとす、今此等の兩者の何れが正しきかに就きては確かなる證據の存するものを知らず。^{〔三二〕}

此等三代の間に於る回鶻は、依然として唐の勢力の下に在りて、北方諸部族中に舊來の位置を支持したりしが如きも、然も此の間、或は唐に抗して破れ、或は突厥の壓迫を蒙りて、南徙せざる可らざるに至りしが如き、其の勢力の消長につきて注意すべきもの少きに非ず、先づ唐との關係を見るに、婆閏の一代は唐に對して全く柔順にして、西突厥の阿史那賀魯が唐に叛き庭州に寇するや、騎五萬を發し、唐軍の主力を爲して賀魯を破り、更に蘇定方に従ひて之を西方に追窮し、此の叛亂を平ぐるを得たりしが、後又蕭嗣業に従ひ、回鶻の軍を率ゐて高麗征伐に加はり、功を建つる所多かりき。^{〔三三〕}然るに比粟毒の繼ぐや、舊唐書廻紇傳によれば、